

# SJクイズ

[問題編]



**Q1** 平成23年の二輪車（原付・自動二輪）乗車中の交通事故死者数（846人）を年齢層別にみると、最も多い年齢層は次のうちどれでしょう？

- ① 16～24歳 ② 30～39歳 ③ 40～49歳 ④ 65歳以上

**Q2** 平成22年のヘルメット着用別の二輪車乗員死亡率をみると、ヘルメットを着用していて離脱がなかった場合の死亡率は0.5%です。ヘルメットを着用していて離脱した場合の死亡率は、その何倍になっているでしょう？



- ① 約2倍 ② 約3倍 ③ 約5倍 ④ 約8倍

**Q3** 二輪車乗車中の交通事故死者数を損傷部位別にみると、頭部の割合が最も高く、次に胸部です。胸部損傷事故での死者数（平成13～22年の累計）を人身加害部位（致命傷を与えたもの）別にみて、最も多いのは次のうちどれでしょう？

- ① 自動車（相手） ② 工作物 ③ 路面

**【使用上の注意】**

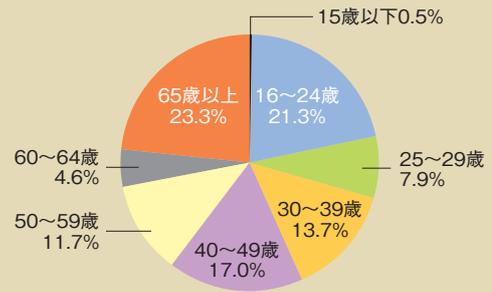
●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください  
本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL:03 (5412) 1736

**Q 1 解答 ④ 65 歳以上**

< 解説 >

平成 23 年の二輪車(原付・自動二輪)乗車中の交通事故死者数(846 人)を年齢層別にみると、最も多いのは 65 歳以上(23.3%)で、16~24 歳(21.3%)、40~49 歳(17.0%)と続く。二輪車乗車中の交通事故死者数は平成 22 年から 2.9%減少しており、65 歳以上と 16~24 歳ではそれぞれ 10.5%、6.3%減少している。その一方で、40~49 歳と 50~59 歳ではそれぞれ 18.0%、12.5%も増加している。若者や高齢者はもちろん、中高年層のライダーも安全運転を心がけてほしい。二輪車は出会い頭事故が多いので、信号機のない交差点などでは特に注意が必要だ。

●平成 23 年の二輪車(原付・自動二輪)乗車中の年齢層別交通事故死者数(構成率) ※警察庁資料



**Q 2 解答 ④ 約 8 倍**

< 解説 >

平成 22 年の二輪車乗員死者数(871 人)をヘルメット着用別にみると、257 人がヘルメットを着用していたが離脱してしまっている。死亡率\*は 4.1%と、着用して離脱がない場合(0.5%)の約 8 倍になっている。このようにヘルメットを正しく着用していないと重大事故につながるため、安全基準に適合したヘルメットを着用するとともに、万一の事故の際に頭部から離脱しないように、あごひもをしっかりと締めておく必要がある。

\*死亡率(%) = 死者数 ÷ 死者数 + 負傷者数 × 100

●平成 22 年のヘルメット着用別二輪車乗員死者数・負傷者数・死亡率 ※公益財団法人 交通事故総合分析センター資料

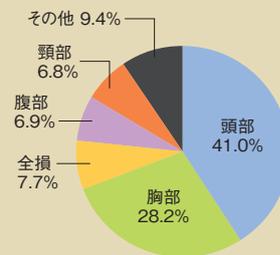
ヘルメット着用	死者数(人)	負傷者数(人)	死亡率(%)
着用(離脱無し)	556	107,368	0.5
着用(離脱不明)	29	1,148	2.5
着用(離脱)	257	5,963	4.1
非着用	24	1,320	1.8
着用不明	5	276	1.8
全体	871	116,075	0.7

**Q 3 解答 ① 自動車(相手)**

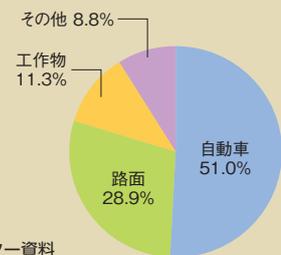
< 解説 >

胸部損傷事故の人身加害部位別死者数(平成 13~22 年の累計)をみると、最も多いのは自動車が 51.0%と半数を占め、路面(28.9%)と続く。一方、負傷者においては、路面(69.1%)、自動車(23.4%)となっている。このように、万一の事故の際、胸部を自動車や路面に接触させて死傷するケースが多いため、ライダーはボディプロテクターなどで胸部を保護する必要がある。

●平成 22 年の人身損傷主部位別二輪車乗員死者数(構成率)



●胸部損傷死亡事故の人身加害部位別死者数(構成率・平成 13~22 年の累計)



※公益財団法人 交通事故総合分析センター資料

【使用上の注意】

●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください  
本田技研工業(株) 安全運転普及本部 TEL:03(5412)1736